

足立やすし

康史

日本維新の会 衆議院議員 足立やすし

五ヶ月に及ぶ通常国会が閉幕 二十質疑Ⅱ党内トップの活躍



■全力の一五〇日間

昨年十二月の総選挙で当選させていただいた後間もなく、年明けの一月二八日に召集された通常国会は、予定通り六月二六日をもって閉会しました。

当選後間もなくの登院でしたので、週末以外はなかなか地元に戻ることもままなりませんでしたが、とにかく頂戴いたしました負託にお応えするべく、全力で走り抜いた一五〇日間でした。

■並み居る大臣と論戦

私が所属する日本維新の会は野党です。大臣や政務官といった形で政府に入ることにはできません。最大の仕事は、委員会などの場で政府与党に論戦を挑むことであり、党内トップの合計二十回に及ぶ質問に立つことができました。

もちろん、回数ではありませんが、総理はじめ並みいる大臣たちを相手に、自分が主導して論戦を展開することができるところから、とても貴重な機会であり、一回一回の質疑に真剣に全力で取り組んでまいりました。

■忘れられない予算委

中でも忘れられないのは初質疑となった三月十三日の予算委員会における質疑です。私が政治を志すきっかけともなった東日本

大震災と福島第一原発事故からの復興に関する集中審議において、一年生議員であるにもかかわらず、最高の舞台であるNHKのテレビ入りでの質問の機会をいただいたのです。

至っているのは報道の通りです。一方、福島の長期帰宅困難地域の将来像について、国が決断すべき、との私の主張については、与党は今も先送りしてはいますが、維新の参院選公約(裏面参照)には、国による借り上げ・買い取り制度を導入という形で盛り込むことができました。

■復興予算の返還に

この時に取り上げた復興予算の問題は、今なおくすぶり続け、二、十四年度予算の返還に

ホームページ開設しネット対応 すべての活動を動画等で紹介

■ネット発信も充実

足立やすしの政治活動を知っていただくため、ホームページでも動画等を掲載しています。衆議院インターネット審議中継のビデオライブラリからも、

「発言者名」の欄に「足立康史」と打ち込んで「検索」ボタンを押していただければ、公式録画にアクセスしご覧いただくことができます。

■二十回の質疑も網羅

私が質問に立った委員会は次のとおりです。

| | | |
|----|----|---------|
| 三月 | 13 | 予算委 NHK |
| 三月 | 15 | 厚生労働委 |
| 三月 | 22 | 厚生労働委 |
| 四月 | 3 | 震災復興特委 |
| 四月 | 11 | 連合審査会 |
| 四月 | 12 | 予算委分科会 |
| 四月 | 19 | 厚生労働委 |
| 四月 | 19 | 原子力特別委 |
| 四月 | 22 | 厚生労働委 |
| 四月 | 22 | 厚生労働委 |
| 四月 | 22 | 厚生労働委 |
| 四月 | 24 | 内閣委 |
| 四月 | 28 | 厚生労働委 |
| 四月 | 29 | 原子力特別委 |
| 四月 | 31 | 厚生労働委 |
| 五月 | 5 | 厚生労働委 |
| 五月 | 19 | 厚生労働委 |
| 五月 | 21 | 経済産業委 |
| 五月 | 21 | 原子力特別委 |

秋の臨時国会でも力を尽くしてまいります。

足立やすしの主張・コラムが BLOGOSに掲載されました

ニューズサイトに足立やすしの主張・コラムが掲載されました。

従軍慰安婦の問題と 沖繩の基地問題

― 橋下市長がツイ ッター・安倍首相が FBを使う理由 ―

今回の一連の問題では、謝るべきは謝り、主張すべきは怯まず主張していく、そういうことが必要と考えています。

橋下市長が風俗（の活用）という表現を使ったことは間違いであり、誤解を与える発信をしたことについては謝らなければなりません。実際、この点について橋下市長はすでに謝り、市長が共同代表を務める日本維新の会も、五月十六日付の国会議員団松野頼久幹事長名の見解において、「橋下共同代表が在沖繩アメリカ海兵隊司令官に対し、風俗業の活用を勧めたという発言

は不適切であったと認識しており、橋下共同代表のより一層の丁寧な説明が必要」としている通りです。

一方、従軍慰安婦の問題については、女性を強制連行し性的奴隷にしたとの国際社会での誤解を解いていくことが必要です。日本政府も、軍や官憲による強制連行を示す証拠はなかったというのを公式に表明しており、この点についてブレず



に言い切っていくことは、日本の政治家の責務であると思います。橋下市長も、五月下旬に、日本外国特派員協会において海外メディアに対し、従軍慰安婦に関する発言の真意を説明することにしていきますが、大変にいいことだと考えます。

（本稿は五月十八日付）なお、前者については、改めて昨日（5/17）の琉球新報の記事をお読みいただきたい。下地議員は当時を振り返り、「米軍に綱紀粛正を問いただしていた」中で、綱紀粛正策について司令官が「フットネスとジョギングだ」と繰り返したことに、反発した橋下市長が「米軍の姿勢を非難するためにこういう（風俗という）表現になった」と指摘しています。不適切な表現は謝らなければいけません。が、「事件を起こしている側は米軍」（下地議員）であり、非難する相手を間違えてはならないと思います。今回、問題が複雑に

なりましたのは、従軍慰安婦の問題と沖繩の基地問題というまったく別の問題が一緒に議論されたことが大きな理由だと思えます。しかし、沖繩に向いて普天間基地の問題に懸命に取り組んでいる橋下代表に、ぶら下がりの取材において、まったく関係のない従軍慰安婦の問題をぶつけてきたのはマスコミの側です。私は、橋下市長が発言した直後から、フェイクブックを通じて、本件はマスコミの責任が大きい、従軍慰安婦の管理責任、強制性、そして人権問題の三つを峻別して報道すべき



と主張してきました。最後に、今回の騒動で、ツイッターとフェイクブックの違いがよく分かったような気がしましたので、一言、付記しておきたいと思っています。

風俗といったテーマについてフェイクブックでも発言してきたのですが、いわゆる、阿部謹也のいう「世間」的な空間であるフェイクブックには、こうしたタブーに挑戦する、本音の議論は馴染まないのかな、と（フェイクブックには申し訳ないですが、）思った次第です。

一方のツイッターに「世間」はありません。あるのは「個人」だけです。橋下市長がツイッターを多用し、安倍首相がフェイクブックを重視する理由は、こうしたところにあるのかもしれません。二人のリーダーの違いは、日本維新の会と自由民主党の違いでもあると（少し飛躍しますが）指摘して、本稿を締めたいと思います。

あだち やすし

- <所属委員会>
- ・厚生労働委員会
- ・震災復興特別委員会
- ・原子力特別委員会(理事)

昭和40年10月14日生まれ。
茨木市立中津小、東中、府立茨木高校、京都大院卒。
経済産業省大臣官房参事官を経て、昨年12月の衆院選で初当選。
茨木高校水球部から国体、インターハイに出場。京大水泳部主将。

